



成果指標				
成果指標	伊予市内での育児相談・学習会の回数			
指標設定の考え方	伊予市内の幼・保・小数の約半数の回数の相談・学習活動を行うことで市内保護者への事業の周知度、充実度がわかる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	10	10	10	10
実績	11	11	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	活動について周知できてきており、学習会の依頼が多くなってきた。それにもなつてグループ相談講師、学習会講師に専門的知識や技術が要求されるため、研修機会を持つ必要がある。親子でともに活動する中で、自らが、子育ての大切さを見つめなおす機会や話しやすい雰囲気の中での自発的な相談活動の場も必要である。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	子育てについての情報交換や悩みなどを相談できる場があまりない母親が増えていることが社会問題ととらえられている。この解消に事業の展開を行っている。内容が深まるにつれて参加者の意識や意欲の向上がみられ、これに応えるべく事業の密度を高める工夫が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	